

看護部署 説明

	説明
4 東 病 棟	<p><産婦人科・小児科 47床> 対象患者は、妊産婦や婦人科疾患で治療を受ける患者、小児疾患患者、新生児・未熟児など年齢も幅広く、病気においても急性期から慢性期と多岐にわたります。母性・小児に関しては、入院患者本人のみではなく、その患者を取り巻く家族を含めて看護を行っています。</p>
5 東 病 棟	<p><整形外科・泌尿器科 50床> 整形外科は脊椎疾患を中心に、主に手術を目的として入院されます。高齢化社会を背景に、地域との連携を図ることを重視した退院支援に努めています。泌尿器科は手術を受ける患者さんが多く、悪性腫瘍の手術や抗がん剤治療など、検査・手術・終末期と多岐にわたります。</p>
6 東 病 棟	<p><内科・放射線科 51床> 対象患者は内科全般(呼吸器、消化器、代謝内分泌)と放射線科です。検査、治療目的の入院病期も急性期から慢性期、終末期と多岐にわたります。近年では高齢化社会を反映し、在宅医療を必要とする場合も多く、家族を含めて他部門の医療スタッフや訪問看護ステーションと連携を図り、在宅医療の充実を目指しています。生活習慣病の教育入院も行われており、患者個々の生活につながる指導を行っています。</p>
7 東 病 棟	<p><内科・心臓血管外科 51床> 循環器疾患を中心に、主に虚血性心疾患の検査・治療目的から、慢性疾患(心不全等)の急性増悪や、心臓血管手術を必要とする患者が多く対象は多岐にわたります。周手術期の看護及び急性増悪を繰り返さないよう、また、就労継続が行えるように入院時から退院を見据え、患者・家族を含め多職種と連携をはかり支援を行っています。</p>
4 西 病 棟	<p><内科・整形外科・産婦人科 51床> 3科混合病棟で入院患者さんは、腱板損傷、上下肢骨折などの周術期からリハビリ期の患者が中心となります。内科は肝臓疾患を中心とした消化器科や肺炎や肺癌などの呼吸器疾患などで治療も内視鏡的治療やIVR、化学療法、放射線治療や緩和ケアなど幅広く、婦人科は手術目的やがん化学療法の患者も多くメンタル面での細やかな配慮に努めています。緊急入院の受け入れも多く、高齢者においては様々な疾患を併せ持つことから多面的に看護を提供しています。</p>
5 西 病 棟	<p>労災事故・交通外傷をはじめ、加齢による変化に伴う疾患等があり人工関節センターの役割を担っています。高齢者も多いため、入院時から退院後の生活設計立てられる入退院支援を行っています。リハビリテーション目的の転院も多く、地域の介護及び医療機関との連携を推進し取り組んでいます。</p>
6 西 病 棟	<p><外科・皮膚科・麻酔科・歯科口腔外科 51床> 周手術から終末期まで幅広い看護を提供しています。術前には手術に対する不安を軽減するため、そして安全な術後管理ができるように術前オリエンテーションを充実させるように取り組んでいます。また人工肛門増設後は、チェックリストに沿って自己管理ができるよう支援を行っています。終末期における癌性疼痛のコントロールは緩和ケアチームと連携を行い、患者のQOLの維持、苦痛の緩和に努めています。</p>
7 西 病 棟	<p><脳神経外科・神経内科・眼科 51床> 耳鼻科脳神経疾患は突然発症することが多く、また急激な病状進行があるため、看護には的確な観察力や脳神経系の専門的知識が求められます。意識障害がある患者には家族を含めた援助が必要であり、患者を人として尊重し、自ら訴えられないことを理解して援助にあたるのが大切です。神経疾患は長い経過をたどることが多く身体的な援助と同時に精神面の援助を行っています。後遺症が残る方も少なくないため、退院後不安なく生活できるように日常生活指導や介護指導を行っています。</p>

手術部	手術室はBCR(バイオクリーンルームNASA規格クラス100の無菌室)を含む8室を有しています。BCRではTHA、TKAなどの人工関節置換術が実施される、手術内容や患者の状態などの目的に応じて手術室を使い分けています。心臓血管外科、脳神経外科、整形外科など11診療科の手術が行われ、24時間緊急手術が行えるようにしています。患者の安全、安楽を最優先に考え、入院患者の術前・術後訪問を行い不安の軽減に努めています。
救急部	<p>特定集中治療病床8床を有し、年間600例前後の入室患者を院内外より受け入れています。脳・循環器疾患をはじめ呼吸不全、多発外傷など多岐にわたる重傷患者が多く入室します。クオリティーが高く、安全で安心した看護が提供出来るよう、そして、患者さんのQOLを重視したやさしい看護が提供出来るよう集中ケア認定看護師を中心に、固いチームワークで取り組んでいます。</p> <p>2次救急を中心に1次～3次の救急患者の受け入れを24時間体制で行い、年間約15,000人の救急患者、3600台の救急車を受け入れています。救急外来を受診される患者、家族は危機的状況にあるため精神面への支援をはじめ、きめ細かい対応が出来る様、救急看護認定看護師を中心に多種職と連携しチーム一丸となり取り組み、地域から信頼される救急医療、看護に努めています。</p>
外来	地域医療支援病院としての役割を果たせるように、地域医療連携室を中心に地域のかかりつけ医と連携を図り、患者に安全で安心な医療を提供し、信頼され選ばれる病院、外来を目指しています。近年では検査や外来日帰り手術も増加しています。接遇はもとより患者が安心して外来治療が受けられるように、知識・技術の向上に努め、質の高い看護の提供に取り組んでいます。
患者センター	事務3名、MSW3名、看護師8名で地域の医療機関や施設からの紹介・受診予約などの前方支援、また患者さんが安心してスムーズに入院し、退院できるように入院支援及び退院調整を行っています。関連医療機関や施設との連携業務においては、迅速かつタイムリーな情報提供ができるように心がけています。今後も患者さんと地域や施設を結ぶ橋渡しとなれるように努めていきます。